

令和6年度 食育推進会議 議事録

開催日時	令和6年8月22日(木)午後2時30分～
開催場所	オンワード樺山仙台ビル 10階ホール
名簿	委員 五十嵐昌広、小野恵、小山田陽奈、神田あづさ、作田竜一、辛貞任、鈴木隆、千石祐子、二階堂善一、平田政嗣、船迫直樹、町田巳菜、大和一美、郷湖伸也、小松利充(こども若者局長代理)、木村賢治朗、渋谷智彦(教育長代理) 【欠席委員：石川宣子、郷内俊一、天野元】 (敬称略)
事務局	オブザーバー 菊池家庭ごみ減量課長 川口健康福祉局理事(保健衛生担当)、松本保健衛生部長、佐野健康政策課長、松本健康増進係長(司会進行)、阿部農食ビジネス推進室長

発言者等	発言内容
進行	<p><1. 開会></p> <p>定刻になりましたので、ただいまより令和6年度仙台市食育推進会議を開催いたします。本日はお忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。会議の開催にあたりまして、郷湖健康福祉局長よりご挨拶申し上げます。</p>
郷湖健康福祉局長	<p>健康福祉局長の郷湖でございます。委員の皆様には、日頃より、本市の健康福祉行政はもとより、市政全般にわたり格段のご理解とご協力を賜っておりますことに、心より感謝申し上げます。またこの度は、新たな委員の皆様には、ご就任につきましてご快諾をいただいたこと、また本日、大変お忙しい中、ご出席を賜りました皆様に、改めて御礼を申し上げます。</p> <p>さて、この食育推進会議は、本市の食育を総合的かつ計画的に推進するため平成18年に設置したものでございます。以来、関係団体、事業者、市民公募の委員の皆様と意見交換をしながら、食育活動を進めておりますが、特に昨年度は、委員の皆さまにご協議いただき、3月に「仙台市食育推進計画(第3期)」を策定したところであり、この4月からは、当計画に掲げた「未来へつなげる食育」をコンセプトとした食育推進をスタートしました。市民一人ひとりが食について多様な視点で関心を持ちながら、毎日の食事を味わい楽しむことを通して、「健康」「食文化」「より良い環境」を個人の将来や次世代につなげていくことを目指すものとなっております。</p> <p>当会議では、本市における食の課題や食をめぐる現状について委員の皆様で共有し、また、ご協議いただきながら、「仙台市食育推進計画(第3期)」の目指す、より良い未来の実現に向けて、食育の取り組みをさらに推進していきたいと存じます。委員の皆様には、食育を推進する主体としてのお取り組みなどをご紹介いただきますとともに、それぞれのお立場からの視点でのご意見や、新たな発想からのご提言など活発なご審議を賜りますようお願い申し上げます、私の挨拶といたします。</p> <p>本日は、よろしく願いいたします。</p>
進行	<p>ありがとうございました。健康福祉局長は、委員席に移動させていただきます。</p> <p>本日の会議は、本年6月9日に委員任期が改まりましてから初めての会議となります。今期の委員としてご就任いただきました皆様をご紹介申し上げます。なお、恐縮ではございますが、配布資料の委員名簿の順に紹介をさせていただきますと存じます。</p>

進行	<2. 委員紹介> 仙台市小学校長会、連坊小路小学校校長、五十嵐昌広委員でございます。
五十嵐委員	よろしくお願いいたします。
進行	宮城県生活協同組合連合会、常務理事、石川様は、本日欠席でございます。 仙台市保育所連合会役員、小野恵委員でございます。
小野委員	よろしくお願いいたします。
進行	公益財団法人みやぎ環境と暮らしネットワーク事務局、小山田陽奈委員でございます。
小山田委員	よろしくお願いいたします。
進行	仙台白百合女子大学人間学部健康栄養学科教授、神田あづさ委員でございます。
神田委員	よろしくお願いいたします。
進行	宮城大学食産業学部フードマネジメント学類教授、作田竜一委員でございます。
作田委員	よろしくお願いいたします。
進行	市民公募、辛貞任委員でございます。
辛委員	よろしくお願いいたします。
進行	仙台農業協同組合営農部営農指導センターセンター長、鈴木隆委員でございます。
鈴木委員	鈴木でございます。よろしくお願いいたします。
進行	一般社団法人仙台歯科医師会常務理事、平田政嗣委員でございます。
平田委員	平田です。よろしくお願いいたします。
進行	市民公募、船迫直樹委員でございます。
船迫委員	船迫です。よろしくお願いいたします。
進行	仙台市私立幼稚園連合会役員、町田巳菜委員でございます。
町田委員	どうぞよろしくお願いいたします。
進行	一般社団法人仙台市医師会理事、大和一美委員でございます。
大和委員	大和でございます。よろしくお願いいたします。
進行	次に、本市職員の4名が委員に任命されております。健康福祉局長、郷湖でございます。

郷湖委員	よろしくお願ひします。
進行	こども若者局長、郷内でございます。本日は小松こども若者局次長が代理出席しております。
小松こども若者局次長	代理で出席させていただいております小松と申します。よろしくお願ひします。
進行	経済局長、木村でございます。
木村委員	よろしくお願ひいたします。
進行	教育長、天野でございます。本日は、渋谷総務企画部長が代理出席しております。
渋谷総務企画部長	代理で出席しております。渋谷でございます。どうぞよろしくお願ひします。
進行	よろしくお願ひいたします。 次に、本日出席させていただいております、オブザーバーについてご紹介いたします。仙台市環境局資源循環部家庭ごみ減量課課長、菊池でございます。
菊池家庭ごみ減量課長	菊池でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。
進行	続きまして、事務局を紹介させていただきます。健康福祉局理事、川口でございます。
川口健康福祉局理事	よろしくお願ひいたします。
進行	保健衛生部長、松本でございます。
松本保健衛生部長	松本です。よろしくお願ひします。
進行	健康政策課課長、佐野でございます。
佐野健康政策課長	佐野です。よろしくお願ひします。
進行	関係課よりご出席いただいております、経済局農業振興課農食ビジネス推進室長阿部でございます。
阿部農食ビジネス推進室長	阿部です。よろしくお願ひします
進行	どうぞよろしくお願ひいたします。
進行	<会議成立報告> ここで本日の会議の成立についてお知らせいたします。 現在、15名の委員にご出席いただいております、過半数の出席となっておりますので、仙台市食育推進会議条例第7条の規定により、本会議は成立しております。

進行	<p><資料確認> 続きまして、本日の資料の確認をお願いいたします。お手元の会議資料一覧をご覧ください。資料 1-1、資料 1-2、参考資料につきましては、先に郵送させていただいております資料となります。次に、本日配付資料の確認でございます。出席者名簿、席次表、健康づくり提唱の集いチラシ、令和 6 年度健康お役立ちレシピコンテストチラシ、健康政策課の SNS、仙台伊達なキッチン - だてきちの PR カード、以上でございますが資料の不足はございませんでしょうか。 ありがとうございます。</p>
進行	<p><3. 議事> それでは議事に入りたいと存じます。 <議事 1 > <会長選任> 本日は委員任期が改まりましてから初めての会議となりますので、まず、会長を選任いただきたいと存じます。仙台市食育推進会議条例第五条の規定により、会長は委員の互選により定めることとなっております。皆様からご発言ございませんでしょうか。</p>
小山田委員	<p>はい。作田委員を推薦したいのですが、よろしくをお願いいたします。</p>
進行	<p>ただいま、小山田委員から、作田委員をご推薦いただきました。皆様、いかがでしょうか。(拍手あり) ありがとうございます。それでは恐れ入りますが、作田委員につきましては、会長席にお移りいただきたいと存じます。 それではここで作田会長からごあいさつをちょうだいしたいと存じます。お願いいたします。</p>
作田会長	<p>皆さんこんにちは。ただいまご推薦いただきました、宮城大学の作田でございます。今回、私はこちらの食育推進会議に初めて参加させていただく身でありながら、大学の所属ということもございまして、ご推薦いただいたのかなと思っております。 会長職については、非常に不慣れなところがございます。この会に長年お勤めいただいている方もいらっしゃる中で恐縮ではございますけれども、大変重要な会議であると認識してございますので、円滑また活発な議論のため皆様のご協力を賜りますよう、ぜひ、よろしくをお願いいたします。</p>
進行	<p>ありがとうございました。これからの議事進行につきましては、会長をお願いしたいと存じます。よろしくをお願いいたします。</p>
作田会長	<p><会長職務代理者選任> それでは、以降、私の方で進めさせていただきたいと思えます。 早速でございますけれども、議事として最初に事務的な手続き事項が 2 つございます。まず 1 つ目ですけれども、新たなメンバーになったということで、会長の職務代理者の指名がございまして、これにつきましては仙台市食育推進会議条例第 5 条第 3 項の規定によりまして、会長であります私の方から、職務代理者を指名するということになってございます。私としましては、神田あづき委員をお願いしたいと思えます。神田委員、また皆様いかがでございませうでしょうか。 (拍手あり) それでは神田委員、どうぞよろしくをお願いいたします。</p>

神田委員	よろしく申し上げます。
作田会長	<p><議事録署名人指名> 続きまして本日、この会議ですね、議事録を作成することになります。 議事録に署名していただく委員、こちらの方も、私の方から指名させていただくと、決まりになってございます。 今回の議事録署名につきましては、仙台市保育所連合会の小野委員にお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。 (拍手あり)</p> <p><議事2> それでは、今日は出席者も非常に多ございますので、早速中身の方に入って参りたいと思います。議事の2つ目でございます。 食育推進事業令和5年度実績及び令和6年度事業計画、資料としては1-1、資料1-2、について、でございます。事前に事務局から送付された資料になります。こちらの資料につきましては仙台市食育推進計画に基づきまして各団体及び仙台市が実施している食育推進事業について、委員の皆様から回答いただいたものを事務局で取りまとめたものでございます。たくさん取り組みを出していただいていますけれども、各委員の皆様には短くて恐縮でございますが、2～3分程度で各主体の特徴的な事業、また新規事業などを資料より抜粋してご紹介いただきたいと思います。お話しいただく際には、資料のどこをお話しいただいているかがわかるように、資料のページとNo.をあわせてお話しください。ぜひご協力いただきたいと思います。資料の順番で、ご紹介いただきたいと思います。掲載順にお声がけをさせていただきますのでどうぞよろしくお願いたします。 それでは最初に、医療の専門的なお立場での取り組みといたしまして、仙台市医師会、大和委員、お願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。</p>
大和委員	<p>よろしくお願いたします。 仙台市医師会としましては、まずNo. 1の、仙台市立の学校健診の後に、児童生徒に対して校医専門による、食の改善、運動の事後指導の実施介入しております。特に糖尿病の精密検査におきましては今年度2名のⅡ型糖尿病の児童が発見されまして、今、入院しているというような状況もございます。特にコロナ禍以降、再び児童の肥満が、増加しているということで、子どもでも内臓脂肪が蓄積すれば、動脈硬化が進みやすいですし、動脈硬化の初期の支障となる血管の硬さの値も高くなるということで、ここはしっかりと介入していきたいということでございます。 また、No.の3と4でございます。こちらの妊婦健診と産婦健診では、妊娠高血圧症候群、糖尿病などの異常を早期発見していくところで介入したいとは思っているのですが、現在では、逆に日本ではやせた女性が増加しているということでございまして、こちらの女性たちがやせたまま出産いたしますと、その胎児が大人になってから糖尿病、メタボリックシンドロームなどの生活習慣病、そして鬱病を発症するというエビデンスがございます。ですので、妊娠時のやせというのはリスクがあるということで、血圧、血糖もそうですが、体重に関しても、しっかり指導していく方向がいいと思っております。また日本のやせた女性に関しましても、若いころにやせていますので、高齢になってまたやせていくということで、骨密度が非常に低く、骨粗しょう症になりやすいということも言われておりますし、今後、健康寿命を延ばしていくというのが非常に重要な課題かと思っておりますが、腹八分というのは中高年のある一定の過食状態の方には良いのですが、子</p>

	<p>どもや高齢者には効果がなく、その世代にとってはしっかり食べていくという啓発もしていくべきだろうと考えております。以上でございます。</p>
作田委員	<p>ありがとうございます。続きまして仙台歯科医師会の平田委員お願いいたします。</p>
平田委員	<p>仙台歯科医師会の平田です。よろしくお願いたします。</p> <p>仙台市会医師会からまずは1ページ目の7のところをご覧いただければと思います。妊婦歯科健診・フッ化物歯面塗布助成事業ですが、これは仙台市の事業として協力させてもらっていますが、その中でも、特にフッ化物歯面塗布助成事業に関しましては、医師会の先生方のご協力のもとに、順調に進めてさせていただいております。今は30%を超える状況になっています。この事業そのものは、1歳6ヶ月までに歯医者さんにとにかく行ってもらい、そこから虫歯予防、歯と口の健康づくりに幼いころから取り組み、かかりつけ歯科医師をもってもらい、ということなのですが、ここでこれをきっかけにもう1つワンランク進めたいなと思っております。何かと申しますと、最近、食べるのがすごく苦手な子ども、食べにくい子どもというのが、やはり見られます。10年、20年前の子どもたちの口の中を比べると、いわゆる乳幼児健診とかで拝見しましても、噛み合わせなど、その辺が随分変わってきています。それはもう明らかに分かってくる場所があり、実際保育士の方々に伺うと、やはり、食べるのが難しい子どもたちがすごく増えてきていて、要はお母さんが離乳食などをどのように取り組んだらいいのかよくわからない、というようなことがございます。仙台市の歯と口の健康づくり計画第3期では、食べる力のサポートブックを多職種連携で作成し、それをお母さんたちが使えるような形に整えていこうというような事業が、おそらく来年あたりから本格的に始まっていくと思っておりますので、それに参画していければいいのかなと思っております。</p> <p>次のページの17です。我々は口の健康というところで市民向けに啓発イベントを行っておりますけれども、コロナ禍で実現できなかったのが、4年ぶりに実現させることができるようになりました。その中でも、色々なコーナーを作っております。栄養士さんをお願いして、子どもたちの栄養のコーナーを作っておりますし、ここで協力してコーナーを作らせてもらったのが、オーラルフレイルですね。高齢者の食に対する、お口の衰え的な部分とかで、色々な医学的な食とかですね、啓発とか、あと実際に色々な器具を実際に体験してもらって、というようなことを実施させてもらいました。</p> <p>18番です。青年期についても何か取り組みが必要だということでの事業です。高齢期、または壮年期に対するアプローチも必要ですが、それを迎えるにあたるいわゆる青年期の方たちのお口を整えていかななくてはならないというところで、これはハローフロスプロジェクトという、デンタルフロスを使って、特に大学生を中心に歯と口の健康に対して、興味を持ってもらい、そこから歯と口の健康について啓発していこうというようなことでございます。仙台市におきましても、食を支えるための歯と口の状態が、歯周病なり虫歯なりというところでやはりまだ十分解決してない問題をたくさん抱えておりますので、その部分に対して、すべての世代から、対応できればいいのかなというところで、仙台歯科医師会としては、多職種で取り組んでいければと思っております。活動しているところです。以上です。</p>
作田会長	<p>ありがとうございます。続きまして栄養の専門的、立場としての取り組みといたしまして宮城県栄養士会、千石委員から、お願いいたします。</p>

千石委員	<p>はい。宮城県栄養士会の千石です。</p> <p>26 番目、子育て応援団すこやか 2023 ですが、こちらは参考資料の食育事例集の 2 ページ目にも書いてあります。これは各団体が共催して夢メッセで行われまして、栄養士会としてブースを出させていただいたところです。子どもを楽しく育てることができる社会環境づくりを目指して、地域や行政、子育てに関わる団体や企業など産官民による応援隊を結成して、来場者方が楽しい時間を過ごせるようなイベントです。その中で子どもたちが、先ほど大和委員から肥満とか糖尿病など生活習慣病の子どもがいるというお話もありましたが、そのような予防というところで実施しました。子どもたちに、朝ごはんはどんなものがいいですかねなんて話をしながら、料理カードを選んでもらいました。意外と上手にバランスよく作れている子が多かった印象があります。こういうところに来て、興味を持っているお子さんたちは意外と食育に関しては、ご家族の意識も高いのかなという印象がありました。</p> <p>それから、20、21 です。これはシルバーセンターの食育月間のイベントに共催いたしまして、20 は各市民センターさんから依頼をいただきまして、フレイル予防、特にここはシニアの世代の方たちに向けた介護予防の栄養講座を行っております。アンケートをいただくのですが、「フレイル」は知っていてもどのように食べたらいいかわからなかったが具体的に知れてよかったなどというお話をたくさんいただきます。それから、21 の介護予防の元気力アップフェスティバルというのは、個別の相談で、栄養相談のコーナーブースを設けて行いました。</p> <p>22 は、仙台市の地域包括ケア推進課と契約を結んでおりまして、シニア世代向け介護予防講座というのを実施しております。昨年は 11 ヶ所と少なかったのですが、今年度はもう 25 ヶ所から依頼が来ていまして、やはり、シニア世代の自分たちの食事に関するフレイルを予防したいという意識の高さがうかがえますので、今後も続けていきたいという事業になります。以上です。</p>
作田会長	<p>ありがとうございます。続きまして、子どもやその保護者を対象とした施設の立場での取り組みということで、仙台市小学校長会、五十嵐委員からお願いします。</p>
五十嵐委員	<p>連坊小路小学校の五十嵐と申します。</p> <p>では学校の取り組みを 2 つほど、ご報告させていただきます。4 ページの 30、31 番をご覧ください。こちらは両方ともですね教職員の研修を通して、教職員の資質能力を高めてそして子どもたちに還元していこうという取り組みになっております。</p> <p>まず 30 番の取り組みですけれども、仙台市小学校教育研究会というのがありまして、こちら、例えば国語とか算数とか、部会がありましてその中に、学校給食部会というのがありまして、そこには、学校給食とか食育に関心を持つ教職員が自ら希望して所属し、一緒に研修をしていくというものになっております。研究主題は、昨年度も今年度も、「食を大切に作る心を育み健全な心身を養う食育の推進」と、テーマを決めて取り組んでおります。具体的な内容については実績・計画のところを書いてありますが、年 3 回、部員全員が集まって、研修を深める全体会を開催しておりまして、最初の研修会では、健康教育課の指導主事から、お話をいただいて、仙台市の課題とか現状をみんなで把握する。特に今年度につきましては、健やかな体の育成プラン 2024 というのが仙台市の方で策定されましたので、みんなでそれを理解して、その方向に基づいた取り組みをしていきたいと思いますということで確認しました。そして、それぞれが取り組むためのテーマを</p>

	<p>地区ごとに決めまして、取り組んでいく内容をある程度方向性を決めて、もう、取り組みが始まっているところです。2回目は11月に行うのですが、それぞれ取り組んだ内容をみんな情報交換しながら、学校での取り組み、そして使える取り組みなどを共有しながら、効率よく研修が進められるようにしているところです。そして、その中から特に良かった事例などを取り上げて、3回目に全体発表という形で、部員全員にその話を聞いていただいて、それぞれの学校でそれを還元していただくという取り組みをしております。これは給食に関わるものだけではなくて一般の先生方も入っている部会になります。</p> <p>続いて31番につきましては、今言った教育研究会の学校給食部会の中に、栄養教諭学校栄養職員部会というのがありまして、こちらについては、栄養教諭学校栄養職員に限った人たちが入る、いわゆる給食を作って提供する立場の方の部会ということになります。提供する側の研修ということで、全体としては5回ほど研修しています。例えば専門に関わるような研修であるとか、或いは専門家の先生をお呼びして講話いただいたりとか、施設見学をしたりとか、そういった取り組みをして、資質能力を高めているところです。それから、全体では人数が多いので、仙台市を8つの地区に分けてそれぞれの地区で取り組みも行っていきます。例えば、調理講習会をしたりとか、或いは新しいメニューなど子どもたちが喜ぶような献立の開発であるとか、そういった取り組みを行ったり、あとは宗教食とか食物アレルギーも増えておりますので、そういった対応をどうしたらいいかという具体的な取り組みなども行ってまいります。そういったことで我々、教職員の資質を高めながら、子どもたちに還元していこうという取り組みを2点挙げさせていただきます。</p> <p>以上です。</p>
作田会長	<p>ありがとうございます。続きまして仙台市私立幼稚園連合会、町田委員、お願いいたします。</p>
町田委員	<p>はい、よろしくお願いたします。</p> <p>仙台市の私立幼稚園連合会、加盟している幼稚園、それから認定こども園等統一の、何か食育に関するルールというようなものは、特にはございません。</p> <p>資料の方では、4ページの32番から、5ページの37番までのところに挙がっていますが、例えば給食の実施回数等におきましても、それぞれの幼稚園で、週5日、全部給食のところもあれば、私は太白地区の西多賀幼稚園ですけれども、私どもの園では、給食は週3回希望注文制ということになっておりまして、その辺のスタイルは、この私立幼稚園連合会に入っている園それぞれで異なることがあります。その中でも、どちらの園でも、おそらくこれは同じように実施しているというのが、33番35番36番37番あたりで、実際に子どもたちに、1つ1つの食材を知らせたり、それから、これを食べるとこんなに体にいいよというようなこと。それから私どもの園を見ていると、子どもたちまだまだ食べず嫌いなところもあるので、一口でもいいから食べてみようねというような、ところ、そういったことの指導など、対象が満3歳から6歳までの子どもたちなどで、本当に小さなことから1つ1つということになるとは思うのですが、子どもたちに伝えていきます。</p> <p>それから、34番は、教職員の研修で、実は今年の夏の研修会でも仙台市私立幼稚園連合会・宮城県私立幼稚園連合会共催の教職員の研修で、神田先生に研修のお時間を持っていただいて、お話をお伺いしたりしました。</p> <p>それから、私の園では、一番これが大きいかなと思うのが、37番の、園の中で、</p>

	<p>食物を栽培して、収穫して食べる体験。これを、おそらくどの幼稚園さんこども園さんでも実施しているのではないかなと思うのですが、例えば、ミニトマト、枝豆にラディッシュ、キュウリ、かぼちゃサツマイモ、そういった野菜を、あとはうちの園ではたまに小松菜とかも栽培するのですが、小さな畑だったり、物によってはプランターだったりしますが、そういった所で作物を栽培し、自分たちで収穫して食べる体験をすると、今まで1度も食べたことなかったものを、「先生、これおいしいね」とか、「先生、これ僕たち作ったやつだよ」とか言いながら食べる姿も見られるので、こういった、興味を持って食べる体験、そこを食育の入口にということで、今年度もこういった経験をたくさんやっていきたいなと思います。</p> <p>それからもう1つ、ここには書いていませんが、幼児の食事、幼児食というものについて、なかなか今のお母さんたちも忙しかったり、あと、若いお母さんも多いので、「こういった行事のときに、こういうものを食べるんだよ」というようなこと、季節の行事と食の繋がりがなかなかご存知なかったり、実際にやってみることのない保護者の方も多いので、幼稚園の生活保育の中で、その行事食などについても伝えていければいいかなというふうに考えているところです。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>作田会長</p>	<p>ありがとうございます。続きまして仙台市保育所連合会をお願いいたします。</p>
<p>小野委員</p>	<p>保育所連合会ですと、先ほど町田委員の方からもありましたが、子どもたちに対しては通年食育活動だったり、同じように栽培をしたりというところから、クッキングをして、その場で食べるという活動に取り組んでいます。あと、コロナが明けたというところで、保育参観のときに試食を出したところ、やっぱり保護者の方にも実際に目で見て、子どもたちがよく食べるところを見たということもあってか、「メニューをください」というところから、「実際に家でも作ってみました」という声も聞かれるようになってきているので、引き続きそこは進めていきたいなと思います。</p> <p>資料の5ページ目の38から41の取り組みのところですが、特に連合会として力を入れたのが40、41の研修と研究のところ。子どもの発達と食事の関わりというところに力を入れてきました。昨年度はアレルギーのことを勉強したのですが、今年度の歯科医の先生からもご協力いただきまして、やっぱり安全に食事を提供するにはというところで、子どもの成長に合わせて、咀嚼だったり、口の中の成長の様子などをお話していただきました。あとは、また最近は災害も各地で起きていますし、東日本大震災を経験していない職員もどんどん多くなってきているので、実際に被害に遭われた福田町や福室保育所の先生から、浸水の際の事例を話していただいて、非常食の使い方なども勉強することができました。また防災士の先生からも色々なお話をさせていただいて、その研修を通して共有することができました。実際にやはり保育に結びつけられるような内容を中心に、今後も学んで生かしていきたいというふうに考えています。</p> <p>41番の研究委員ですが、「ステップアップあさごはん！」というところで、簡単に保護者が取り組めるようなメニューを伝えているところではありますが、やはり最近は生活リズムが遅くなってきているので、夜9時に寝てくれると子どもとしては一番理想なのですが、お仕事が終わってからすべてのことをして子どもを寝せるとなると、10時11時過ぎになってしまっていて、なかなか朝起きられない。そうすると朝は忙しくて、朝ご飯を作る時間がないということで、やは</p>

	<p>り菓子パンだったり、コーンフレークだったりを中心の朝ご飯になってしまうことが多いので、そういう生活リズムも含めて色々考えながら、朝ご飯の大切さを知らせつつ、簡単に組み入れる、栄養が摂れるメニューを考えていけたらいいなというふうに思っています。</p> <p>以上です。</p>
作田会長	<p>ありがとうございます。それでは続きまして仙台市 PTA 協議会 二階堂委員お願いいたします。</p>
二階堂委員	<p>仙台市 PTA 協議会 二階堂です。</p> <p>今回特に皆さんに報告するような事例はございませんでした。我々としては、各学校の PTA を支援するという立場にあります。私たちが何かを率先して何かを開くというところは、昨今行っておりませんでした。</p> <p>ただ、コロナ禍で各学校の PTA の活動が止まってしまったと言ってしまうのか、コロナ禍で活動できなかった期間が長かったせいで、何をしたいかわからない学校が増えてきておりました。昨年度から、そういう学校を支援するために、まずは何か事業を起こしてくださいということで、お金をもって支援するという活動を行っております。その中で、子どもと保護者を含んだ何か活動してくださいって形でお願いしているところでございました。</p> <p>また、各小学校さんたちと協力して、新入学の小学 1 年生の給食支援などは、引き続き PTA などバックアップしながら行っています。あとは今言う死語になってしまった「黙食」という言葉がありました。皆さん前向いてご飯を食べていた、給食というのはつまらなかったもの、から、今度は食を楽しむところですね。私たち保護者は子どもに教えていかななくてはいけないという立場との考えを持っております。</p> <p>食事というものを、こういう楽しさ、本当は栄養とかを考えれば一番良いのですが、私が経験したのは、学校に行くと、給食を食べます、帰ってきてお菓子を食べて、夜お腹いっぱいと言います、なぜかという、給食はあまり好みじゃないと。色々バランスを検討いただいている食材だということも全部わかっているのですが、1 時にご飯を食べて、3 時にお菓子を食べて、お腹が減っているのかいないのか、ご飯をかき込むという、食事を作業としているということが、私の感覚ではよく見られてしまうな、と。私の子どももそうなのですが、食事は作業という形で「食べなきゃいけない」というもので、楽しんでいないように感じる。そこを何とか、PTA 協議会としては、まず食事が楽しいものなのだと、みんなと笑って食べればおいしいものだ、というところを PR していきたいなと思っております。</p> <p>以上となります。</p>
作田会長	<p>ありがとうございます。続きまして、安全な消費生活を通じする団体の取り組みといたしまして、みやぎ環境と暮らしネットワーク、小山田委員お願いします。</p>
小山田委員	<p>よろしくお願いいたします。</p> <p>9 ページをご覧ください。私たちは団体名に「環境」とついております通り、環境の保全、水ですとか、あとはエネルギーですとか、あとすごく大きいテーマとしては気候変動ということで、そういった中で活動しております。</p> <p>もちろん、食という部分の環境に関しても力を入れて活動をしておりまして、No.72 のところにありますように、令和 5 年度は、MELON の設立が 30 周年でしたので、宮城 SDGs 環境アドベンチャーということで、食をはじめとして、海ですとか森ですとか、宮城の自然環境に気づけるような中身で、フェスタという形で事業を開催しました。その中で、食については、海のお話ということで株式会社</p>

	<p>仙台水産さんですとか、あとは食、農業の現場の話ということで、宮城の在来作物などの話を三浦農園の専門農家の方にお話いただいたりしました。</p> <p>また令和6年2月には、「大人の食育」をテーマにしまして、おいしいもの食べながら、生産者のお話を聞くということで、「仙台農塾」というちょっとリッチな形で、地元の産品を食材として使っているお店をピックアップしてそこで実際に食べながら講師のお話を聞くというような企画を行いました。</p> <p>令和6年度は、同じように「MELON フェスタ」を計画いたしまして、こちらはもう7月に開催をしたのですが、このときは、ブースの出展などをしながら一般の方が見られるようなフェスタの形で開催しまして、令和6年度は仙台市の環境局の家庭ごみ減量課の皆さんにもご協力いただきまして、エコベジというものを紹介していただいたりしました。</p> <p>以上でございます。</p>
作田委員	<p>ありがとうございます。続きまして、農業生産流通の立場から仙台農業協同組合、鈴木委員お願いいたします。</p>
鈴木委員	<p>はい、9ページでございます。</p> <p>まず73番、名称につきましては、親子農業体験「ふあむふあむ」ということで、こちらはファミリーとファームの頭文字を取って、このような名称になってございます。目的といたしましては、JAと、地域住民との関係を強化すべく、普段接することの少ない世代を対象とした農業体験を実施し、食と農の魅力を直接発信することで、JAの事業や活動への理解を深めると、いうふうな目的となっております。今年につきましては枝豆収穫体験を、明後日、8月24日に開催することになっております。なお果樹につきましては、私どもは利府も管内でございますので、利府の梨を収穫体験後、最後のメインとなっておりますが、仙台の曲がりネギも収穫体験を予定しているということになってございます。</p> <p>続きまして、一応今日、小学校の方も来ていただいておりますので、74番が、小学校を対象にした農業の作業体験ということで、こちらに記載されている小学校で田植え、稲刈り等の体験活動を実施しています。</p> <p>続きまして、75番です。宮城県におきましては、大豆の作付けが北海道に次ぐ第2位ということで、当JA仙台におきましては、現在、主食用米を作るものが、水田面積の約50%、それ以外は転作をするということで実施しているのですが、仙台につきましては転作作物を「大豆」にすることを推進しております。その大豆を使った豆腐づくりということで、JA仙台が事業を展開している、食の教育の一環として、地場産大豆を活用し、管内に居住する小学生を対象として、普通に大豆から、豆腐に至るまでの一連の作業体験できる豆腐づくり講座を開催させていただいたという中身になってございます。なお今年はまだ申し込みを締め切っておりますけれども、仙台市ですと、馬場小学校、岡田小学校、芦ノ口小学校、幸町南小学校、鹿野小学校、南材木町小学校、富沢小学校、広瀬小学校、松森小学校、向陽台小学校の10校の申し込み状況になってございます。</p> <p>あと、こちらに記載はないのですが、JA宮城グループとしまして、全国的にはまだ宮城県しかやっていないと思っておりますが、小学校と中学校に、学校給食で環境保全米を提供していくということで、化学肥料を50%まで低減し、農薬を慣行栽培の2分の1ということで、そういった特別栽培の環境保全米を提供させていただき取り組みを実施しております。</p> <p>私の方からは以上でございます。</p>
作田委員	<p>ありがとうございます。続きまして、大学での取り組みことで、仙台市白百合女子大学の神田委員からお願いします。</p>

<p>神田委員</p>	<p>9 ページの 76 になります。</p> <p>この取り組みは、地域の乳幼児と保護者の方にご一緒に本学にいらしていただいて、本学の子ども教育学科の保育士または幼稚園教員を将来目指す学生が、乳幼児にエプロンシアターまたは紙芝居で食育をする、というもので、この指導を私がさせていただいております。以前、最初のスタート時は、管理栄養士が子どもたちに向けて行っていたのですが、やはり上手なのは、子ども教育学科の学生です。また、私の希望としましては将来幼稚園もしくは保育園に勤めても、食育ができる保育士または幼稚園教諭になって欲しいという気持ちがございますので、そのような、トレーニングを兼ねて実施しております。保護者の方には、アレルギーと、食の細かいお子さんを対象とした講義をさせていただいております。論文では、食事は睡眠時間ともすごく関わっていて、そのことをお話ししつつ、どうしたら良いかということをお話している間に、子どもには学生たちがエプロンシアター紙芝居をするということで、11月に実施したのですが、当日、参加予定者が1人を残してインフルエンザとなり、その方も参加を遠慮されたため実施がなかったため、今年度は時期を変えて実施したいと思います。</p> <p>あと、今年度より、先ほど五十嵐委員から紹介のありました学校給食部会の栄養教諭・学校職員部会での研修でご講演されている、宮城県立こども病院の虻川大樹先生が会長している宮城県小児保健協会に私が入ることになりましたので、肥満の子どもにも対象に、できれば2回実施したいなと思っています。</p> <p>今年度はくれぐれも気をつけて実施したいと思います。</p>
<p>作田委員</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>それでは最後に、私の方から、宮城大学での取り組みについて簡単にお話をさせていただきたいと思っています。資料といたしましては、9ページから10ページに、77、78、79と3つ掲載いたしました。宮城大学、特に私の所属しております食産業学群になりますとゼミや、対学生向けのものはある意味すべてが食育というようになります。それが10ページの78番で継続の取り組みとして書かせていただいたものです。77と79、この取り組みが私の方で取り組ませていただいているものです。</p> <p>77番については、やはり大学としては、大学の隣接地域での取り組みを強化していく、学生と地域の連携をすることも必要だなというところなんです。人来田中学校のお話をしますと健康食品についてお話をしてもらえないかということがありましたので、ダイエットとか、色々関心を持つ年代になってくるので、そこで昨今、健康食品での健康被害が出てきますのでそういったお話をしましょうということで、新たな取り組みを始めようとしているところです。</p> <p>10ページの79番、こちらは高齢者の取り組みです。こちらは、参考資料の食育事例集ですと、7ページ目に写真入りで掲載させていただきましたけれども、この大学に隣接した地域の町内会で、人口6,000人ぐらいいるんですけども、高齢化率は全体でも40%、ちょっとこれより悪い地域で50%を越しています。それで地域のほとんど半分が高齢者ということになるので、食育という点でもやはりそのボリュームゾーンに対して何かやっていく必要があるだろうなということです。先ほど二階堂委員からもお話ありましたけど、コロナの影響は非常に大きかったかなと。やはり、会食、共食をする、お茶っこ飲みも含めて、みんなで一緒に会って話をするというのは、感染リスクが高いからやめようというので、これまでのそういう活動がなくなってしまった。そこで、昨年からの県の補助をいただいて、お茶っこ飲みを復活させようということをどンドンやっていったということでございます。その取組を今年も引き続きやっていこうということです。</p>

	<p>ちょっと時間の関係もございますので、こちらの参考資料の7ページをぜひご覧いただければと思います。</p> <p>ということで、まず資料1-1に基づきまして各団体様の取り組みについて、非常に詳細にお話をいただきました。やはり資料を見るだけではわからない、それぞれの団体の関心事項、方向性、またいろいろな視点からこの食育を伺って、その展開を通じて、全員が関係するというところを、改めて感じることができたかなと思います。この皆さんの報告に基づきましてまたディスカッションができればというふうに思いますが、若干時間押しております。</p> <p>この次の話題といたしましては資料1-2を用いまして仙台市から取り組みの報告になります。簡潔にご説明いただきますと幸いです。</p> <p>それではまず、健康福祉局からお話いただければと思います。どうぞよろしくお願ひします。</p>
郷湖委員	<p>それでは健康福祉局から、まずは市民局の取り組みについて私の方からご説明させていただきます。</p> <p>資料1-2の1ページのNo.2、消費生活センターの「消費生活講座」でございます。消費生活センターでは食育に関する内容として、食品表示、地産地消、食品ロスに関する情報など、広報誌や教材等の配布、ホームページ等で発信しておりますが、「消費生活講座」として、市民を対象に食育の意識を高める講座を開催しております。昨年度は年1回の開催でしたが、今年度は年2回開催を予定しております。</p> <p>次に健康福祉局の取り組みでございますが、4ページのNo.30でございます。こちらは今年度の新規事業となります仙台市食環境整備事業「仙台伊達なマルシェ-だてまる」でございます。こちらの事業では、市民が栄養面に配慮した食品を手軽に選択・購入して普段の食事に活用しやすくなるような環境を作ることを目指しております。市民の食の課題でもあります、減塩ですとか栄養バランスの改善に着目した取り組みとして、登録店舗となる市内スーパー等におきまして、専用のマークを用いて、減塩商品を目立たせる「塩エコ」、栄養バランスのよい弁当や、お惣菜の組み合わせを提案する「栄養バランス」の両方、またはいずれかを実施していただきます。仙台市から啓発媒体のポップですとかシール、資料などを登録店舗に提供する他、取り組みの支援と、市民への周知を行って参ります。現時点では仙台市内のみやぎ生協さんの30店舗に登録いただいております。実施状況は健康政策課のインスタグラムでご紹介しております。</p> <p>続きまして、資料20ページ、No.169でございます。「朝プラ!~朝ごはんにプラスワン~」事業でございます。こちらの事業につきましては健康福祉局、こども若者局、教育局の栄養士が連携して行っている事業でございます。市民の朝食欠食の低年齢化が課題になっておまして、仙台市食育推進計画(第3期)では、朝食を毎日食べている市民を増やすことを目標としております。これまでも各所で朝食の啓発はしておりますけれども、保育所、学校、区の保健福祉センターなどが中心となって、同じロゴマークや標語を使った、幼児や子育て世代までの継続した、切れ目がない取り組みを行うことで、適切な朝食の習慣化を図って参ります。当局としては、若い世代や子育て世代を中心に、健康教育の場、或いは幼児健診等の既存事業等の啓発なりに組み入れまして、手軽に朝食を取る方法、或いは栄養バランスをアップさせる方法などをロゴマークとともに啓発して参りたいと思います。</p> <p>私から以上でございます。</p>
作田会長	<p>ありがとうございます。続いてこども若者局、お願ひします。</p>

小松子ども若者局次長	<p>子ども若者局でございます。初めに、母子保健における各区役所及び各総合支所での取り組みについてご説明させていただきます。</p> <p>資料1-2の6ページのNo.58から7ページのNo.62でございます。各区、総合支所では幼児健診や母子健康手帳の交付時、3~4ヶ月児育児教室、離乳食教室の際に、栄養士や保健師等の専門職が、妊産婦や乳幼児の健康的な食生活について健康指導や個別相談を実施しております。</p> <p>まず7ページの62の、幼児健診における啓発でございます。新型コロナウイルス感染症が拡大いたしました以降は休止してございましたが、昨年度の5類移行を踏まえ、内容の見直しも行いながら、平成5年度末より順次再開しているところでございます。</p> <p>このほか、妊産婦や乳幼児の保護者に向けた啓発として、リーフレットや動画を用いた食育情報の発信を行ってございます。一例といたしまして、せんだいTubeといった動画サイトを使いまして、離乳食や親子で楽しめるレシピを紹介してございます。</p> <p>続きまして保育所等における取り組みでございます。10ページのNo.86の保育所等における、和食に関する取り組みの回数の増加でございます。保育所等の入所児童の保護者を対象に、和食文化の継承のための働きかけといたしまして、料理のレシピ等を紹介し、和食の良さを伝えてございます。また、給食における和食の提供回数が増加するよう、米飯を主食とし、主菜、副菜、出汁を使った汁物を組み合わせた和食献立の作成を、各施設へ促しているところでございます。</p> <p>子ども若者局からは以上でございます。</p>
作田会長	<p>ありがとうございます。続きまして経済局からお願いします。</p>
木村委員	<p>経済局からは、地産地消促進の取り組みについて2点、ご紹介いたします。</p> <p>資料11ページのNo.95をご覧ください。ホームページやInstagramを使いまして、いろんな生産者取材記事の掲載ですとか、直売イベントの広報などを行っておりますほか、11月に、地産地消の月間といたしまして、「とれたて仙台」と銘打ってのフェアを行っております。市役所の南側の市民広場さらに南側に「Route227's Café」というのがございまして、洋食チェーンのハミングバートさんが運営しているところですが、去年はそこでこの期間中ですね、仙台産農産物、曲がりねぎ、雪菜、秋保の蜂蜜を使った特別メニューを提供しております。今年度も同じように実施したいと思っておりますが、白菜とかブロッコリーなどをメニューに入れたいと思っております。Instagramは、今日時点で2,350件ぐらいのフォローなのですが、「とれたて仙台」と検索していただくと出てきますので、ぜひフォローしていただくとありがたいです。</p> <p>もう1点は12ページの中No.98になります。こちらは、仙台産の農産物を使った料理教室ですとか、それから生産現場の見学会、また栽培収穫体験、主に小学生の親子を対象として、仙台産の地場の農産物に親しんでもらうというものでございます。今年度は、先ほどのJAさんの紹介とかぶってしまったのですが、料理教室、枝豆を使った料理教室を明後日土曜日にやる予定になっております。それから、2回目以降については秋に白菜、それから冬にブロッコリーで開催したいと考えております。生産現場の見学会はすでに終わっていますが、夏野菜ということで先週、あと秋に11月ごろに秋野菜、それから今度の日曜日に種まきをして、それを10月に刈り取りをするということで進めていきたいと考えているというところです。</p> <p>以上でございます。</p>
作田会長	<p>ありがとうございます。続きまして教育局、お願いいたします。</p>

<p>渋谷教育局総務企画部長</p>	<p>教育局でございます。</p> <p>13 ページ 109 番でございます。食育に関する講習会の実施です。子どもたちの体力向上を目指す、運動習慣、心身ともに健康的な生活習慣、望ましい食習慣の確立を図るために、学校の教職員や保護者、一般市民を対象とした講演会を例年 8 月上旬に実施しております。</p> <p>今年度は、栄養バランスに配慮した食事の必要性や、保護者に向けた栄養バランスのよい食事をとるための工夫やポイントなどについて、広南病院の管理栄養士の先生にご講演をいただいたところでございます。参加者からも大変好評でございました。</p> <p>続いて、111 番、調理講習会の学校給食センターでの調理講習会についてでございます。令和 5 年度まで、コロナの観点から開催を見送っておりましたがけれども、今年度は、市民に学校給食の理解を深めていただくことを目的に、高砂学校給食センターを会場に 5 年ぶりに開催したところでございます。当日はかつおぶしの削り体験や、だしを使った料理の調理講習会を実施し、小学校 4 年生から 6 年生の児童と保護者 10 組が参加して、大変好評を受けたところでございます。子どもたちの食に対する興味関心を高め、健康的な食生活、確立の一助となるよう、こうした取り組みを実施して参りたいと考えてございます。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>作田会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>加えまして、仙台市食育推進計画（第 3 期）では、推進の柱といたしまして環境保全、脱炭素を意識した食生活の推進が掲げられているわけでございます。この環境負荷を減らす食行動を目指す姿として明記されているわけでございますけれども、この取り組みにつきまして、環境局の取り組みをご紹介いただければと思います。環境局、よろしく申し上げます。</p>
<p>菊池家庭ごみ減量課長</p>	<p>それでは環境局の方から、2 点ご紹介いたします。</p> <p>まず、10 ページの 89 番です。食品ロスガイドブックの活用ですけれども、こちらは令和 5 年の 10 月に、第 2 版を発行いたしまして、食を通じてエコな暮らしを提案する新リーダーとして、平成 30 年度に仙台市が仙台食エコリーダーという方を養成しております。この方たちに監修いただきまして、時短等楽家事に繋がる内容であるとか、或いは、先ほど小山田委員からもご紹介いただきましたけれども、野菜くずを再利用できるエコベジなどですね、楽しみながら、食品ロス削減への取り組みを新たに掲載しています。あとは、家庭でどのぐらいの食品ロスが発生しているかということ、日記形式で記録して見える化に取り組める食品ロスのダイアリーを改定して掲載しております。</p> <p>次に、90 番は、小売店、飲食店等での食品ロス削減ということで、こちらの方は、小売店や飲食店等から発生する食品ロス削減のために小売店等から生じる消費期限が近い食品を消費者に割り引いて提供するマッチングサービスを、令和 4 年の 10 月から開始しており、年間を通じて運用しております。</p> <p>あとこちらの方には書いておりませんが、昨年度から、新たに飲食店 13 店舗、あとは宿泊施設 5 店舗と連携しまして、外出時の食べきり呼びかけキャンペーンというものを実施しております。これも今年度も実施する予定で考えております。</p> <p>以上でございます。</p>

<p>作田会長</p>	<p>はい。ありがとうございます。</p> <p>以上で、資料1に基づきまして、各団体様また仙台市の取り組みの紹介ということで、実際は資料にはもっとたくさんの方が掲載されているわけですが、抜粋でご紹介いただいたところでございます。</p> <p>私自身もそうですが、色々聞いてみたいという気持ちになっているところがございますけども、ここで、まずは市民公募のお二人の委員の方から、各主体また市の取り組みについて、ご感想ですとかご意見、またご質問がございましたらお伺いしたいと思います。特に個別の取り組みにつきましては取り組みナンバーをおっしゃっていただくと明確かと思えます。それでは辛委員からお願いしたいと思いますですが、いかがでしょうか。</p>
<p>辛委員</p>	<p>辛でございます。</p> <p>何もわからないまま、この会に出席してしまって、あまりの範囲の広さにびっくりしていることが本当のところでございます。</p> <p>私個人的には子どもたちに対しての食育に興味があり、この会議のことをたまたま知って、ぜひ聞いてみたいということで、応募し、たまたまここに座っているということだけなので、本当に申し訳ないのですが、今日は本当に、食べられない子どもがいるとか、そういったことがすごく衝撃的でしたし、あと食べることが作業であるという言葉がものすごく印象的でした。</p> <p>やはり食べることという、食育というのはやはり子どものころから、少しでも慣れ親しまないと、育っていかないことだと思います。この数年間いろいろ自分自身の経験を通して、いわゆる今の子どもたちの親の世代というのは、雇用機会均等法の世代の親御さんがほとんどで、専業主婦である方達が少ないと思うのです。ですので、どうしても家庭と仕事の両立というのがものすごく難しく、そのまま来てしまったということがあるのだと思うのですが、でも、振り返ってみて、たまたま色々な方にお話を聞いたり、実際に見る機会があったのですが、60代 70代の男女雇用均等法世代の親の世代の方たちもやはり戦争後ということであったり、あと男女雇用均等法のこともあり子どもたちにも家事を手伝わせるよりは勉強を、とか、そういった形となっているということで、その方たちも食育という形で触れてこられた方がひよっとしたら少ないのかもしれないということも感じています。</p> <p>離乳食はもう市販のものが一般的で、私は子どもたちに対し手作りをしていたのですが、私の子どもたちは、缶詰とか瓶詰めとかで済ませてしまうようなそういった生活をしているんですね。ぜひ私としては、そういうことで育ってきた子どもたちも、実際にちゃんとした、ちゃんとしたという言葉はものすごく語弊を生みやすい言葉ではあるのですが、そういったものに触れる機会をどこかで作ってあげることがとても大事なのではないかなと感じています。</p> <p>自分自身が学童保育で食育のボランティアをしているのですが、今まで知らなかったことでもちゃんと分かる舌はまだ子どもたちは持っているのです、それを継続することは無理でも、どこかで何かの機会でもいいので、1ヶ月に1回でもいいので、ちゃんとした食事というか、ちゃんとした食物というか、とても言い難い言葉ですが、レトルトが悪いとか、決してそういったことではないのですが、そういった添加物や保存料が入っていない食事を得られる機会を作れないかなということをお私に考えておりますし、できたらそうした活動のお手伝いができたら一番望ましいかなというふうにも考えております。</p>

作田会長	<p>辛委員ありがとうございます。</p> <p>子どもの食育にご関心を持っていただいてご参加いただいたという気持ち、ご関心があるところが非常に良くわかったかなと思います。今のご関心のこと、食育活動に対するご意見というところだと思うのですが、これに対して、こういう取り組みがあるよとか、この場でまた共有できればと思います、いかがでしょうか。</p> <p>辛委員のご発言に対して、補足で説明をしていただければと思います。</p>
小松こども若者局次長	<p>はい。こども若者局でございます。</p> <p>子どもの食育ということで、やはりひと昔前まではご家庭で離乳食だったりということが、おばあさんから、お母さんへという形で、伝えられてきたと思います。今は核家族化の進行ということで、離乳食についても、お母さんもうやったらいいのかなということで、いろいろ悩んでいる方々もいらっしゃるの、先ほどもご説明させていただきましたが、乳幼児健診などの機会を通じて、離乳食などのことについてお知らせしたり、あと例えば、保育所などで地域の教室だとかあとは児童館などにおいても乳幼児向けで、離乳食の作り方などいろいろ紹介しているところです。</p> <p>あとは、やはり最近ですと、動画等で離乳食の作り方といったものなどが配信されているので、そちらをご覧になるお母さん方も多いのですが、やはり、動画だけではなく、お母さん同士の繋がりというのも必要なのではというところで、保育所や児童館等での取り組みについて、力を入れて進めているというところがございます。</p> <p>こども若者局からは以上です。</p>
渋谷教育局総務企画部長	<p>はい、教育局でございます。</p> <p>教育局では学校給食を通じまして食育の推進をしております。給食は単独調理校とセンター給食校がそれぞれあるのですけれども、特に地元食材を使った料理を出したりとか、あとは地域の郷土料理を出したりとか、また給食の時間に栄養士が出向きまして、食材のお話だったりとか、こういった料理なんですよというお話を、子どもたちにお話をさせていただいて、できるだけ楽しい食事になるような形で、給食の時間を展開しているところでございます。</p>
作田会長	<p>ありがとうございます。はい、平田委員お願いします。</p>
平田委員	<p>この間、保育士の先生と少し話をしていた、先ほども事業紹介でお話ししましたが、食べられない子が増えてきているから、離乳食が問題だのという話になったのです。そうしたら保育所の先生から、「いや先生そんなこと言うけど、ほとんど缶詰だよ。」と言われました。形のあるものから、形も考えて、それを摂りやすいようにすること、しっかり嚙んでの飲み込むことが大事だとか、あと、目で見てこれぐらいのものはこうやって食べればいいんだなということ、子どもたちが学んでいくということを言いたいのはわかる、でも、今、実際問題、缶詰ということも多いし、生活リズムの変わり方によって、なかなか朝ご飯もちゃんとあげられないというようなところが多くなってきているんですよ、と言われました。それでもいろいろ工夫する必要がありますよね、なんていう形で、その時の話終わってしまったのですけれども、考えているのは、今後そういうふうな食生活や生活リズムも変わってとか、あと昔みたいに、離乳食をおばあちゃんからお母さんから、引き継いでいくようなものが、今後スタンダードな状況に戻せるのか、それともそうではなく、もうそのような状況にならざるを得なくなったというところをスタンダードとして考えていくべきなのか、というところをどう考え</p>

	<p>ればいいのかなと思っています。ある意味、もしかしたらこれって、食育の格差なのかな、というふうな気もしますし、我々食育推進会議委員は、どこの部分にターゲットを絞っていくのかとか、あと、もしくは逆に、いわゆる格差があったとしてもわからないので、逆にいろんな委員にそういう話を伺いたいぐらいなのですが、格差があるのだったらその格差の、こちらの部分にはこういうアプローチの仕方でも色々なことを頑張っていて、また、健康に関してとても意識の高い系の人たちには、こんなアプローチをするなどというふうに分けて考えていくべきなのか、それとも食育に関してはポピュレーションアプローチで実施するのか。我々はポピュレーションアプローチでやろうとしていますけれども、そういうところを第一に考えるべきなのかという、すごく根本的な質問にはなっていますが、それが僕は、聞いていてちょっと疑問でした。今いろんな取り組みとかお話を伺いましたけれども、結構、以前の本来あるべき姿に戻そうというふうなアプローチだったりするような気がするのです。それは大事です。すごく大事だし、そうやって日本文化が育まれてきたというのものもあるので、大事なのだけれども、果たしてそこだけを目指して邁進することが全体に対しての底上げになるのかどうかという部分を、ちょっと考えてしまいました。もし何かご意見いただければありがたいです。</p>
<p>作田会長</p>	<p>非常に深いポイントというか、私ども委員に選任をいただいたところで、今、食育推進計画の第3期ができたばかりではありますが、やはりその次も考えていかななくてはいけないので、実際に作った計画を推進していけるのか、できるのかどうかというところで、非常に重要なポイントを今、皆さんからおっしゃっていただいた。そのきっかけを、まさに辛委員からおっしゃっていただいたのかなというふうに思います。</p> <p>このところだけでも、多分、2時間ぐらいかけてディスカッションできるような、非常に大きな話題だと思うのですが、時間にもちょっと限りもありますので、またこの後ディスカッションの時間をとりますので、まずもう1人の市民公募委員の船迫委員より、ご意見をいただければと思います。</p> <p>よろしく願いいたします。</p>
<p>船迫委員</p>	<p>はい。ご説明ありがとうございました。</p> <p>私は、食育には農業への携わりという観点から、非常に興味を持っておりまして、その辺りからこの食育推進会議の方に参加しようかなと思った次第です。</p> <p>私自身も生産、資料にも載っている、あいコープさんの産地応援隊というのに入っていて、生産者のところに行って、草刈とか、摘果とかの作業を实际してきました。そうするとやはり実際携わると、種植えから、農産物としてお店に並ぶまでのご苦労とかというのがよくわかります。実際やってみると、いろんな問題が見えてきます。まず消費者側のとらえ方ですが、例えば小松菜でも長さ15センチ以内で3本入った袋が1袋幾らという、もう製品化されているものとしてとらえていて、そこから多少大きくても小さくても駄目で、はじいてしまう。そうすると、生産者の方は、それから外れたものは食べられるものも、全部破棄するんです。例えば枝豆なんかでも、さやに3つ入ってないと袋に入れては駄目とか言われて、これは食べられると生産者が思っても、消費者は全部袋1個1個、前後を見て、ちょっとでもおかしいとか、虫が食っているような、ちょっと茶色が入っていると全部はじかれてしまうということで、結局はそれが売れ残ると生産者が夕方回収し、捨てなくてはいけないというロスが出るというところがあって、その辺りの消費者の意識を変えていかないと駄目かなというのがありました。</p> <p>そしてそういう消費者がどうして農産物を製品として見ているのかなと思う</p>

	<p>と、やはり種まきから収穫までの経験が無いんです。畑とか見る機会があったとしても、まあ、成ってるなど。それが、どうやってお店まで商品として並べられるのかなというのわからないと、やはり食材としての愛着というか、自分が食べるものに対して、理解が深まらないのではないかなというふうに思いました。親世代はもう意識が高まっているので、周りから言われても反発する方もいるだろうし、はっきり言ってどうにもならない状況かなと思います。そこで一番大事なのはやはり物心ついてから自分の意思で、判断できるまでの小中学校、もしくは幼稚園の年長さんあたりから、そういうものに携わっていく必要があるかなというのが、非常に大事だと思っています。</p> <p>それで、この資料にも、体験農園とか、保育所とか小中学校で畑を作って、収穫までの取り組みをされているところが何個もあって、非常にいいなと思ったのですが、それをもう少し進めてもらって、例えば小中学校では、授業の一環ぐらいにしてもらってですね、縦割り活動とか、1組さん2組さんなどという形にして、校庭に畑を作って、そういう栽培を、年間通じてやるというぐらいにしていかなないと、食育というのはもう根本がなかなか進まないのではないかな、というふうに思っています。</p> <p>体験農園とかもあります。やはり種まきとか収穫だけというのは、スポット的に行ったら後は、その過程がわからず、それで途切れてしまう。だから、畝づくりから種まき、そして収穫までの間の管理、水やりとか、草刈とかも実際やって、その過程があってやっと食べられるものができるのだというところを、子どもたちに体験させていかなないと、最終的に食育というのは繋がらないと思います。そういう体験した子どもが何年か後にやっとお店に並んでいる食材を、ちょっと愛おしく見て、食べてくれるのではないかな、というふうに思っています。そういう観点で、食育を進められればと思います。</p>
作田会長	<p>皆さんありがとうございます。食材提供という、ある意味では食育の原点のところからのご意見をいただいたということかと思えます。</p> <p>この辺りは行政側の取り組みや、様々な団体の方からの活動報告の中にも入っていたかと思うのですが、補足のご説明や、実はこういうのがあります、ということがございましたら、お話しいただけませんか。</p> <p>はい、鈴木委員お願いいたします。</p>
鈴木委員	<p>はいJA仙台の鈴木です。私どもは「たなばたけ」という農産物直売所を、現在は100%出資した子会社のほうで運営させていただいております。</p> <p>私も、今の「たなばたけ」を作る前に仮店舗で4年間提供させていただいて、運営方針を策定したのですが、確かに市場出荷する場合には規格がありまして、その中でのM品とかL品というふうになっていることで、それがなかなか難しいというか、ロスが発生しますので、そういう規格にこだわらないようなものを販売できるよう、「たなばたけ」を作っております。ですので、本来であればほうれん草だと、規格品で200グラムなのですが、ソテーとかにしたら多分200グラムでは足りないと思うので、規格よりも多い350グラムを袋に入れてその分値段を安くしたり、あと逆に言うと、150グラムを袋に入れて、というようなことをしています。同じほうれん草でも、消費者の中には150グラムが必要な方、300グラムのほうれん草が必要な方などいろいろいらっしゃると思うのです。それだけでも3種類の商品が必要なもので、できればこのような消費者の求めに対応できて、さらに農家がどうしても捨ててしまうような規格外商品を、値段を安価にして販売できる、できるだけフードロスがないような、それが今の「たなばたけ」になっているので、そういう場所を利用していただければいいのかなと思います。</p>

	<p>本来であれば、私もそこで生産者の顔が見える直売所としてスタートさせていた いただいたので、本当であれば「誰々さんの作った枝豆の体験」とか、生産者ご との取り組みをしようと思ったのですが、震災があった都合でできませんでした。 地元の農産物がどこで作られて、どういうふうな形で店舗に出てきているか というのは、やはり、地元の工場で作ったものであるとわかつてお思いますので、 できれば「たなばたけ」をご利用していただければと思いますので、よろしくお願 いします。</p>
<p>作田会長</p>	<p>鈴木委員ありがとうございます。今のお話は、農業の生産の方の手法の変化と いう中で出てきていて、そこと食育との繋がりも必要になってくる。これは色々 な分野で出てきているのかなと思います。 本来ならここで、ディスカッションもっとできると良いのですが、次の議事の取 組みの連携にも関わることで、そちらに移りまして、できましたらディス カッションを総合的に行えればということで、進めさせさせていただきます。 <議事3> それでは次の議事3では、仙台市での連携事業についてということで、お話を 進めさせていただきます。 皆様に実施していただいている既存の事業では、啓発とか周知をしていきたく いけれども、関わりが難しい世代とか、伝えたい内容に無関心な層があるとい うこともあるかとお思います。まさに今、お2人の市民公募委員の方のお話から、少し ディスカッションをしても、そういう部分に繋がっていったように思います。 このような中で、各主体また仙台市の各局との連携・協力することによってよ りターゲットが広がるなど、広く食育を啓発できる機会というものができ ないかということが考えられます。 そこで、この議題では、皆様と一緒に仙台市民に向けての食育を、切れ目なく 推進していけるような協力体制をどうやって構築していくかということで、連携 の可能性や方法について、情報共有また意見交換をしていきたいと思いま す。 まずはこれまで様々な機関や団体との連携事業を推進していらっしやいま すので、宮城県栄養士会の事例について、千石委員からお話いただければと思 います。よろしくお願いたします。</p>
<p>千石委員</p>	<p>連携の事業ということでお話をさせていただきますと、仙台市との連携がとて も多くあります。最初にもご説明しましたが、仙台市の介護予防月間の共催イ ベントとして、健康づくりの公開講座を行っていきまして、11月の介護予防月間に、 様々な場所で、栄養についてのお話をしています。これは栄養士会だけではなく て、例えば理学療法士会とか、薬剤師会、歯科衛生士会とか、様々なところの団 体が協力して行っていて、栄養士会としては、寺岡市民センター、折立市民 センター、黒松市民センターで3回行いました。一般市民向けなのでそれぞれの 市民センターで公募して集めていただいて、大体30名から多いところだと50名 ぐらい集まります。シニア世代向けの介護予防講座として、令和6年度は2ヶ所、 福沢市民センターと高森市民センターで行いますが、他の市民センターでは栄養 士会以外の職能団体のイベントが行われます。 それから、元気アップフェスティバルを介護予防月間の中の1日で実施して おり、例年シルバーセンターで行われるのですが、今年はシルバーセンターの改築 ということで、今年は11月24日に太白区の方で行います。そこでもやはり各団 体の、歯科衛生士、薬剤師、柔道整復師、理学療法士、看護師、運動指導士、言 語聴覚士などの方々が集まって、市民に向けて、市民が必要な情報を、提供 できるというようなイベントになっています。 それから、フレイル予防のための栄養についてということで、調理実習と講 話のセットまたは講話のみとしてシニア世代向けで実施しており、令和5年度は</p>

	<p>11ヶ所と少なかったですが、今年は、仙台市の地域包括ケア推進課でも大いにコミニカルしていただきまして、もうすでに25ヶ所申込みがきています。とても盛況です。集まる皆さんは毎回80歳代の方も多のですが、QOLの向上というところでフレイル予防、介護状態にならないよう、フレイルの時点で健康状態に戻るといようなお話をさせていただいていますが、皆さんとても興味深く聞いていただいています。</p> <p>あとは、柔道整復師さんが開催している、「はればれ健康フェスタ」では、Zoomで一般向けにお話をしました。</p> <p>また、これは仙台市ではないのですが、宮城県の「高齢者の保健事業と介護予防の一体化の実施」事業では、宮城県栄養士会が今年度まで事務局を任せておりまして、その中でもやはりフレイル予防に関して、薬剤師会、理学療法士会、作業療法士会、歯科衛生士会、それから言語聴覚士会さんとチームを組んで、それぞれの違う専門性を生かして、高齢者がいつまでも元気でいられるような的確なお話をしていくということで、栄養士会としては、仙台市も含めて、様々な団体さんと連携を行って、市民によりよい情報を提供していくところです。</p>
作田会長	<p>ありがとうございます。まさに、非常に幅広い団体との連携ということでご紹介いただきましたけども、その中で出て参りました歯科の関係で、仙台市医師会の平田委員から補足などございますでしょうか。</p>
平田委員	<p>はい、我々もそうです。若い世代から高齢者までというところで、歯と口の健康、噛む力ですね、そのあたりを育成するというところから、あとは、オーラルフレイルの入口、というところで各団体さんと連携させていただいております。その中でも、先ほども少し話をさせていただきましたが、6月の歯と口の健康週間の「市民の集い」は、今までコロナの影響でWeb開催だったところを実開催させていただいたところでした。その中では、栄養士会さんからも出展していただいて、市民、約400人の住民の方々に周知させていただいたところでした。</p> <p>あと、各団体との連携ということでいきますと、こちら先ほどお話しさせてもらいましたが、1歳6ヶ月までの子どもたちのフッ化物塗布についてです。これは、実は入口は小児科の先生なんです。小児科の先生から、歯は大事だよということを知り、情報をいただいて、そこから我々歯科の方につないでいただいているというところなんです。歯科のほうが入り口となるとどうしても、3歳児、4歳児からというところになるのですが、歯と口の機能の育成というところ考えていくと、もう少し下の1歳ぐらいからこのアプローチは必ずしなければいけないし、実は1歳でも遅いかもしれないというところがあるので、そんなことで、連携させていただいているところです。</p> <p>あともうひとつ連携といいますと、私たち歯科医は、単独で動いたのではなかなか届きにくいところがあって、色々な団体の方々と連携させてもらっています。例えば、20歳の若者、青年期のところにアプローチするというところで、東北大学と連携させてもらったりしながら、周知しているところで、これはちょっとまた少し膨らみが見えてくるのかなと考えていますし、かなり色々な団体と連携させてもらっておりまして、14団体ぐらいが参加していただいている「歯と口の健康づくりネットワーク会議」というのがあって、そのネットワーク会議の中で、歯と口の健康の様々な課題とか、そういう部分を多方面からご意見をいただいて、何とか仙台市の市民の方々の歯と口の健康から全身の健康にアプローチできるような体制といいますか、取り組みができればと活動させていただいているところです。</p> <p>多職種の方と連携しなければ、なかなか進まないことだと私は思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。</p>

作田会長	<p>平田委員ありがとうございます。まさにこれまでの連携をうまく進めてきた事例としてご紹介いただきました。</p> <p>私自身も、この取り組みをやりながらこの食育という切り口をすると、他の団体さんとの連携が実はしやすく、「食」というものは繋がりやすいと感じるところでございます。通常は、関係ができていないと、どうやって始めたら良いか悩むところでもあります。そういう中で、現在取り組んでいる事業などで、他の主体との連携を何とか広げていきたいと考えをお持ちの団体等ございましたら、ご提案いただければと思いますがいかがでしょうか。はい、では健康福祉局よろしく申し上げます。</p>
郷湖委員	<p>健康福祉局より、議事2で紹介いたしました今年度新規事業のひとつであります、食環境整備事業「仙台伊達なマルシェだてまる」では、市内のみやぎ生協で取り組みを実施するに当たり、媒体の種類、店舗での使いやすさやなど、意見をいただきながら、進めて参ったところです。今後も当事業では、スーパー等と連携を図りながら、健康的な食事の選択ができる環境を整えてまいりたいと存じますが、この「だてまる」事業でのテーマとしております栄養バランスについては、「仙台市食育推進計画（第3期）」でもお示ししております通り、若い世代での食事の栄養バランスが整っていない割合が高いことが課題となっており、大学生や専門学校生のニュースレターなどで、食事の大切さとか、栄養のバランスについての周知はしておりますけれども、より食を意識できる場での周知ができますと、意識や行動に繋がりやすいのではないかと考えておまして、そこで本日は普段より、大学で学生さんと関わっておられます作田会長と、神田委員にご意見やアドバイスなど、頂戴できればと思います。</p> <p>まずは、この会議を通じての連携ということであれば、例えば、宮城県生活協同組合連合会さんを通じて、大学生協さんとの連携ができないかと私共としては考えております。食品の販売を行っている大学生協さんで、例えば弁当ですとかやサラダの売り場にだてまるの栄養バランスマークと啓発のポップ掲示をするなどのご協力をいただけると、より身近なところで取り組みを伝授してもらえるのではないかと考えます。</p> <p>作田会長、神田委員には、大学というお立場から、あるいは他にも若い世代へ啓発の場等として考えられる場面があれば、ご紹介いただきたいと思います。以上、よろしく申し上げます。</p>
作田会長	<p>ありがとうございます。ただいまご提案のありました件について、まずは神田委員からお願いしてよろしいですか。</p>
神田委員	<p>栄養バランスということだと、2006年から2024年まで18年間ほど、2年生を対象に、3日間の食事調査を行っています。1年生は進学でバタバタしていたり一人暮らしが始まったばかりでということもありますので、2年生の早い時期、4月の下旬から5月以内に、3日間の食事を調査しておりましたが、この18年間どれも共通してバランスが取れていない項目は副菜とカルシウム関係、乳製品です。これに関して学生に聞いてみたところ、「副菜は高い」ということでした。もちろんコンビニなどでも売っていますが、副菜は高い。主菜の方が高いように思いますが、学生は「とんかつ弁当、から揚げ弁当を買うのは、高くない。同じ値段で副菜の300円、350円は嫌だ」と言うのです。それならどうしたらいいのかを考えてもらったところ、「副菜は自分で作りたい」という回答がありました。副菜を土日に作り溜めて、そして弁当を買ったときに、パパッと出してくるということができると。学生が男子でも作れるようなレシピとして考えたもので、今の季節で圧倒的に多かったのはトマトのマリネで、トマトを湯剥きし、4等分に</p>

	<p>切って、その上にディスカウントストアで買ったドレッシングを上からかけて容器に入れて冷やしておくだけのもの。あとはラタトゥイユで、ホールトマト缶とコンソメを入れて、あとはある野菜入れて煮るというもの。ほかには、なすの煮びたしで、なすは揚げずに油で焼き、めんつゆをかけて容器に入れておくもの。これを食事に足すだけ、ということを考えていました。</p> <p>このレシピは夏版ですが、春夏秋冬ごとに考えて、それを生協さんのところに貼ってもらうとか、食堂のところに貼ってもらう、持参してもいいことにすると良いと思います。大学生協さんでは、1品の弁当、飲料を買う、丼物を食べる、というだけにして、副菜は持参というふうにするとか。学生のインタビューと調査結果からは、そういうことが考えられるのかという状況です。</p> <p>以上です。</p>
作田委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>大学ということで、私の方にも問いかけがあったというふうに認識いたしましたので、私からお話いたします。学生の状況については、今の神田委員からお話にも繋がる場所もあるのですが、また今日の議論でも平田委員からもありました、格差というか、そういったことも考えなければいけない中で、学生の食を、どう見てあげるのかというのは、私自身、課題と感じています。</p> <p>どうしても教員ということで、学生の大変なところも見えてしまう。そういう中で、もう本当に経済的にかなり厳しい学生と、そうじゃない学生が、すごく差がある中でも食事は一緒にとる。大学のいわゆる学食ですが、普通の食堂に行くとなると持ち込みができないのですが、学食なので持ち込みもOKで、お弁当で自分で食事を持ってくる学生も、学食を買う学生も一緒に食べられる。学食の食事もそれなりに安く出してくれているのですが、それすら買うのが難しい。今、神田委員から話のあった副食をプラス一品ねということも、あと、野菜もう一品摂ろうねという、そういうポスターを貼ったりするのですが、それを買うのにもためらってしまうくらい、経済的にきつい学生もいます。そういう学生がお弁当を持ってきても一緒に食べられるようにしているのですけれども、やはり、経済的なところも含めて、先ほど始めのほうの話題でもあった、ロスになってしまうような農産物などをうまく学食に取り入れるような、そういう形のプラスアルファみたいなことも、上手く栄養バランスをとるためには考えていかなければいけないことだったり、そのターゲットをどうしていくかを考えなければならないと、非常に感じています。</p> <p>この食育についても、20年前の日本ですとまだまだ総中流という形でみんな同じで行けたわけですけど、そうでないところが出てきている中でどうするかということも、考えていかなければというふうに感じます。この辺りも、また議論しないといけないところだと思いますが、時間の都合もありますので先に進めさせていただきます。</p> <p>この食育推進計画(第3期)の中では、環境という視点でどう繋がっていくかというところもございまして、これにつきましてはみやぎ環境と暮らしネットワークの小山田委員から、ご発言いただければと思います。</p>
小山田委員	<p>先ほど事例の紹介でお話しました、MELON フェスタという事業がありますが、こちらは様々な団体の方たちと連携して、今年は7月に行いまして、その中で衣食住という3つのテーマで展開し、食のところでは、地元の農家さんのお野菜を販売したりですとか、あとは、ごみ減量化のブースもあり、エコベジを紹介してもらったり、あとはみやぎ生協のブースも展開してもらいまして、という形で実施しました。ですので、先ほどあった新規事業のみやぎ生協でのポップ掲示などのところも紹介できると思いましたし、あとは、今回、学生の皆さんに、ボラン</p>

	<p>ティアをしていただきまして、その時にちょっとした託児のような形で子どもたちを見てもらいました。ですので、白百合女子大学の神田委員にご協力いただいて食育の紙芝居なんかを上演する時間をとるといいうことができそうだと、すごく具体的なのですが、そういう協力ができそうだなというふうに思いました。</p> <p>何か自分たちから、ちょっとご提案して、連携できるように、ご連絡をさせていただきたいなと思いますのでその際はどうぞよろしくお願ひいたします。皆さんとも、何か一緒にできればと思っているのですが、やはりなかなか糸口が難しく、私たちも、「環境」というものが両方ないと「食」という部分だけではなかなかできないというのがあって、そこの接点をうまく見つけていけたら、見せ方で何とかできるので、私たちがその環境に関心がある人たちというところに、フレイルであったり、栄養のバランスとか、子どもに対しての食育というような意識を啓発できるような情報提供ができる機会が作ればなというふうに思っております。</p> <p>以上です。</p>
作田会長	<p>どうもありがとうございます。今ご意見いただきましたところは、私自身が大学で学生に教えているこの数年で、非常に環境というところの切り口に対する関心が高まっている感じがいたします。より若い人たちは、今は SDGs の教育があるのだと思いますが、食品ロスとかそういうところが食育とかいろいろ繋がってくる。今日お集まりの委員の皆様、まさに、こういったきっかけにより、連携が広がっていけばなというふうに思っていますので、この場に限らず、繋がっていただければと思うところでございます。</p> <p>以上で議事3としては終了させていただきまして、その上で、議事の2と3の両方合わせまして、共有しておきたいことや、質問しておきたいことなど、時間の都合により1名の方にお願ひします。</p> <p>(千石委員挙手)</p> <p>では、お願ひします。</p>
千石委員	<p>本日、皆様の資料に「健康づくり提唱の集い」という資料がありますが、今週の土曜日8月24日になるのですが、ぜひ皆様、或いは皆様の周りの方に参加していただきたく、PRさせていただきます。本日資料で配布された「食育せんだい」のカードも、資料と一緒にお渡しできるので、今日いただいでいて、参加者の皆さんにお渡しする資料の中に入れて込んでいいかなと思っておりましたので、どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
作田会長	<p>ありがとうございます。もしほかにもこれはというものがありましたら、事務局から皆さんにお繋ぎいただくとか、その辺りぜひご協力いただければと思います。せつかくのこの、推進会議でございますので、ご活用していければなというふうに思っております。</p> <p>ということで、議事としてはここまでになります。続きましてその他としまして事務局からよろしくお願ひいたします。</p>
(事務局) 佐野健康政策課長	<p><事務連絡></p> <p>長時間のご議論ありがとうございます。</p> <p>ただいま千石委員からもございましたが、健康政策課より、この「食育せんだい」のカードをお配りしております。皆様のご所属及び何かのイベントでぜひご活用いただければと思いますのでよろしくお願ひいたします。</p> <p>本日の議題になりました連携につきましても、発言の時間がなかったなどがあるかと思っておりますので、もしこういうことで、食育と一緒に連携したいということ</p>

	<p>がございましたら、事務局の方にご連絡いただければと思います。</p> <p>また、今回参考として資料としてお配りしております、令和5年度の食育活動の事例集でございますけれども、市民の方にも公表させていただきますので、よろしく願いいたします。</p> <p>さらに、今年度の会議につきましては、大きな協議のない年度、計画策定などのない年度になりますので、年1回の開催とさせていただきます。皆様におかれましては任期が2年間となっておりますので、来年度もどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>以上になります。</p>
作田会長	<p>事務局からのお知らせ、どうもありがとうございました。</p> <p>一応、本日予定されていた議題は以上となります。非常に不慣れの中で議長して議事進行をさせていただきました。少し時間をオーバーしてしまいました大変申し訳ございませんでした。ただ、皆様のご協力で非常幅広く、また深い食育の議論ができたかと思えます。本年度内はこの1回ということになりますけれども、これをきっかけに、ぜひ連携して仙台市の食育もしっかりと進めていくことができれればと思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。本当に今日はどうもありがとうございました。</p> <p>では、以上をもちまして、私の方から進行を事務局にお返ししたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
進行	<p><閉会></p> <p>委員の皆様お疲れ様でした。</p> <p>以上をもちまして、令和6年度仙台市食育推進会議を閉会いたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>

令和 6年 月 日

署名委員

印